公益社団法人こどものホスピスプロジェクト

2026年度　事業計画書

（2026年4月1日～2027年3月31日）

1. はじめに ― 理想を率先して実現する一年へ

当年度は開設10周年という大きな節目の年であると同時に、次の10年へ向けた転換点となる一年と位置付けており、あらためて「重い病気の子どもたちの尊厳が大切に扱われる社会の実現」という原点を改めて確認します。

以下の基本姿勢を再確認し、理想を“率先して実現する”積極性を持って事業を推進します。

- フレンドシップ（友として関わる）
- ホスピスアットホーム（病院ではなく家である）
- ローカルイニシアチブ（地域に根差した自発的活動）
- フリースタンディング（寄付に支えられた慈善活動）

2. 2026年度の事業環境と運営体制

■事業環境

2026年度は、法人設立15年、施設開設10周年を迎える大きな節目の年となります。2025年度は、内部体制の整備を重視した「チューニング（守りと地固め）期間」と位置づけてきたのに対し、2026年度は、これまでに構築してきた基盤を土台として、活動10周年を契機とした飛躍と領域拡大（攻めと広がり）へと転じる年と位置づけました。

また、「私たちこそが率先して理想を実現する」という意思のもと、従来の活動を5つの事業領域として再定義し、戦略性と可視性を高めながら、社会的影響力の一層の拡大を図るフェーズとしています。

■運営体制

当法人ではティール組織（個々が自立的に意思決定し、進化し続ける組織）をベースとした運営体制を構築しています。また、意思決定およびガバナンスを意識し、理事会を「意思決定・承認の場」、全事業会議を「情報共有・助言の場」として位置づけ、各々の役割を明確にしています。併せて、公益法人の持続的かつ適正な運営を支えるため、バックオフィス（経理・財務・人事・労務・総務・法務・情報システム等）の機能強化も重要な取り組みとして位置づけています。

3. 2026年度 重点テーマ

本年度は、以下の5つの事業領域を軸に推進します。

① 小児緩和ケアの実践（公1-（1）1、2、（2）1、2、3、（3））

専門性と実践力の向上を図り、子どもと家族に対するケアの質を継続的に高める。

― 子どもたちの幸せを高める（シーズン**1**）

利用増加を踏まえ、以下を推進します。

- 年齢別プログラムの充実（0-6歳、小学生、中高YA、きょうだい）
- 遺族100世帯超への柔らかなつながりづくり
- 医療連携強化
- 食を通じた取り組みの検討
- 小さな成功の積極的発信

「子どもの願いに伴走するケア」と「グループプログラムの充実」という二本柱で、理想的なケアを探求します。

② 地域とのゆるやかな融和（公1-（2）1、2、3、（3））

地域との関係構築を進め、こどもホスピスが地域に開かれた存在として機能する環境づくりを行います。

アートパーク、つる芝、みんなのホスピスなどを以下の方向性で統合、再設計します。

- 市民参加型の場づくり
- 興味喚起 → 理解促進 → 行動の循環形成
- 楽しさを入口とした仲間づくり

地域とともにあるこどもホスピスとして、存在価値を高めていきます。

③ 支援者の広がりづくり（公1-（2）1、2、3、（3）、収2）

パブリックリレーションおよびファンドレイジングの両面から支援者との関係性を強化し、継続的な支援基盤の拡充を図ります。

3年で「アベレージ2億円」の寄付基盤の構築を目標に、本年度は以下の施策を実施し、関係人数の倍増を目指します。

- 10周年を活用した大規模PR
- チャリティーコンサート・ウォークの主催
- スポーツ分野への展開
- 企業連携の強化
- 広告活用へのトライ
- オウンドメディアの統合された運用
- 団体の理念や周知を目的としたチャリティグッズ販売

④ 各地のこどもホスピスのサポート（公1-（3））

当団体に蓄積された知見や経験を活かし、各地のこどもホスピスの取り組みを支援します。また、全国への広がりは依然として限定的という危機感を持ちながら、以下の施策を実施します。

- オープンソースプロジェクト

  └ケア指針の公開

  └創業研究の公開

  └研修・交流

  └ケアを学ぶ会の実施

⑤ 社会復帰の成功事例づくり（公1-（1）1、2）

病気の如何に関わらず、学校や就業など、社会復帰につながる支援を行います。特に10代の子どもたちの伴走を強化し、以下の施策を実施します。

- 地域資源の開拓
- 企業パートナーの開拓
- 子どもホスピス内の居場所づくり

4. 10周年記念事業

10周年を“会話を生み、興味関心を高める装置”として活用します。

基本方針：

1. 関わったすべての人に「ありがとう」を伝える
2. すべての表出物に記念ロゴを入れる
3. あらゆる場面で「祝10周年！」と言い続ける

具体策：

- チャリティウォーク（5月）
- チャリティーコンサート（7月）
- サンクスパーティ（9月）
- 記念グッズの展開
- 周年寄付ページの設置
- PR強化

5. 財務方針と永続性

収入：約1.74億円
支出：約2億円

預金：約2.4億円

事業推進体制の強化に伴い、支出増が見込まれることから単年度では収支差が生じる計画としています。また、前年度支出を参考に3年程度の預金額を目指し、その永続性の担保に努めます。

6. まとめ

2026年度は、法人設立15年・施設開設10周年を迎える節目の年として、これまでに構築してきた基盤の上に立ち、5つの事業領域を推進します。こうした取り組みを推進する事により、重い病気を伴う子どもたちであっても、同世代の子どもたちと同じ経験が得られ、子どもの尊厳が大切に扱われるように事業を推進していきます。